

教育力向上ワーキンググループ 会議録

1 日 時	平成26年9月12日（金）15:00～16:40
2 場 所	新居浜市役所3階 応接会議室
3 出 席 者	浦江賢治座長、一色明繁委員、森直子委員、渡邊誠一委員、橋川隆至委員、伊藤久門委員、坂上公三委員、吉田達哉委員、中山瑞枝委員、國司恵美子委員、木村和則委員（事務局長兼教育力向上戦略監）、眞鍋育朗委員（総括次長兼社会教育課長）、横井敏行委員（教育委員会事務局次長）、加藤京子委員（学校教育課長）、尾崎洋子委員（子育て支援課主幹）、篠原絵里委員（総合政策課主任）
4 傍 聴 者	0名
浦江座長	<p>皆さん。こんにちは。お忙しい中ありがとうございます。早速会の方に入りたいのですが、ちょっとお断りで前回司会の不手際で、この事務局の方でまとめている⑨番までの項目の内の②番までしかできなかった。できれば今回で最後まで行って、次の会では提案の仕方について皆さんの御意見をお伺いするという事で最初の第1回の時に事務局の方から提案があったのですが今日はできれば前回の会では①番②番までしかしていませんでしたので③番目から⑨番目までというのは非常に厳しんですけども、また活発に御意見をいただきながら最後までできたらと思います。多少ちょっと終了時間が遅くなるかもしれませんが、その辺は御理解、御了承いただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>前回⑨番目までの項目の中の施設・設備についてとコミュニケーション能力、特に前回はあいさつについてたくさんの御意見いただいたんですけども、それについてのまとめと言いますか、それは会議録の方にございますので、また、そちらの方も見ていただきながらと思います。今日は早速ですが③番から入りたいと思うんですけども②番のところまでで前回御意見いただいた中でどうしてもこれはと思いつかれたのがありましたら施設・設備、コミュニケーション能力のところでは御意見いただきたいんですけども。③番から入らせていただいてもかまいませんか。そしたら③番の家庭における教育力向上というところでの御意見出していただいた中で、七つの御意見をいただいております。これについて、それぞれ追加やあるいはこれどうだろうかというような御意見いただきたいんですけども。</p> <p>疑問形で書かれてる項目もありますので提案を今度、市の政策懇談会の方でさせていただきます際には、疑問形ではなくてこういう取組という形になっていくかと思うんです。ここに出ている課題をどう解決していくための提案ができるか。提案の形も考えながら御意見聞かせていただけたらと思うんですけども。</p>

<p>渡邊委員</p>	<p>特に今出にくかったら私の方から一つ先に提案させていただけたらと思います。③番目のところで家庭でしなければならないこと、すべきことができてないのではないかとというところで、家庭でしていただきたいことの一つに、これは市P連の方から提案していただいとんですが最近携帯電話とかスマホとかで、メールのやりとりあるいはLINEとか、そういう子ども同士のトラブルのもとになることもありますしメールなどについては、ほんとあの午前1時2時3時に平気でメールのやり取りをしている。メールをもらった方はすぐまた返信せんと次の日に責められたりということがあります。そういうことについては家庭でやっぱりきちっと、例えば訪問させていただく、あるいは電話を掛けるのも10時11時というのは我々の感覚からは、ちょっと問題あるんじゃないかと思います。市P連さんの方では9時という形で提案していただいてますよね。そういうのを市P連のその発信を受けて市全体で、そういったものを広げていけたらどうかと思うんです。使い方のルールを考えて、それを市内全体に広めていく。そうすると大人の中でも緊急の場合は別ですけども、そういった携帯やスマホ等によるお互いの生活に干渉する言うたら言葉悪いんですけども来たら返信という形の状態があるわけですから、そういうふうな少しでも防げるかな、子どもも守っていけるんじゃないかな。統計が出るとのが子どもが何時からは使ってはけませんよ。というのを決めた市があるんですよね。決めてもらったことで返信などをしなくてよくなって助かったと答えてる子どもが結構おるんです。ただそういうルール作りを市P連さんの発信を受けて市全体、学校もそれぞれの単Pも協力する形で推し進めていったらどうかなと思うんですけども、ちょっと他有りましたら。</p> <p>昨年PTA宣言ということで、そういうスマホ特に携帯というわけではなく、通信媒体という言い方をしています。それでソーシャルネットワークとかLINEとかっていうのを9時までにしてください。PTA宣言でいうのをさせていただいて各御家庭に配っていただけるように、お願いは去年、一昨年としております。その中でも特にLINEというのがいじめの始まりだったりLINEでいじめを受けて自殺したりというのが全国的に見られる。LINEというシステムは悪くはないんですけども、子どもたちにとっては便利すぎてどうしてもLINEで会話したりていうのが普通に9時10時11時に平気でやっているところがございます。これは市全体でというふうになれば条例化というところまで強く推し進めていかないと意外とやっぱり、なし崩しになるような気がして仕方がないんですけども、そうなれば市議会の方に上程みたいな形になるとは思いますが、そこまでしないとできないんじゃないかなというふうには思います。</p>
-------------	---

浦江座長	そういう方向性を持った提案を市の政策懇談会に出していただくということについては問題ないですよ。
一色委員	市P連の3つの提言があったと思うのですが、あれについては各校でもう一回話し合いをして11月にまた話し合った内容を報告するようになっていきます。
渡邊委員	あれが完璧というわけじゃないんで我々が言えるとしたらここまでかなっていうのを提言させていただいたんで、それを条例化になると変わってくると思います。
浦江座長	市としてもそういう取組を進めていこうということの提言をさせていただく。具体的に僕、あまり電子機器強くないんであまりわからないんですけど提言の中に家庭ですべきこととして含めさせていただくということの内容で、これは小中学生のいる家庭だけじゃないと思うんです。高校生もいますしいろんな子どもを取り巻く環境の一つとして、そういう提言を出していくということをお願いします。後スポ少のことでありますとか性教育のことでありますとかいろんなことがあるんですけどもどんなですかね。
伊藤委員	私の経験からスポーツ少年団の指導をする代表であるとかですね、監督であるとかという立場にいたことがあるんですけども、それぞれ私の場合はソフトボールだったんですけども、そこに属しているなんらかの上部団体がありますので、そこに何かしらの教育に関する依頼をするということが出来るんじゃないかなと思うんです。例えば挨拶を徹底しようとか、指導の方法について、中にはやはりまだ若干体罰めいたような指導とかっていうのをよく聞いたりしますから、そういったことを是正するという意味でもこういった取組を新居浜市をあげてしようとしているから協力をお願いしますということで依頼をするということは重要な事じゃないかなと思います。
浦江座長	勝つことという人間づくりで頑張ってもらいたいということですよ。
伊藤委員	そうです。明らかに教育の一環だと思いますので。
浦江座長	大きいですよこれ、そこでそういうふうな形で取り組んでいろんな団体さんが取り組んでいただけたら。

伊藤委員	<p>他に地域活動あるいはスポ少そういったものについての御意見ございませんでしょうか。</p> <p>これ逆に質問なんですけどもスポ少というような枠組みだけではなくて、例えば硬式野球のチームとか私も以前少しお手伝いをさせていただいたこともあるんですけども、本部が松山であるとか、あるいはもっと大きな組織の中に属しているような団体とかもいてるかと思うんですね。いわゆる学校外での運動に関する団体ですね。こういったところまで話は言及していく必要はありますか。</p>
浦江座長	<p>スポ少と例えばリトルリーグとかサッカーとかいろいろありますよね。そういったところにもいろんなことを依頼してこういった形で取り組んでいます。是非御協力をお願いします。そういった依頼と、そういう会を時々もてたりする機会があれば、それは子どもを育てるという大きな意味で言うたらほんとに大変プラスになるし学校としてはありがたいと思います。今はつながりが極端に言うたら直接のつながりがございませんから、そういうつながりも大事じゃないかなとは思いますが。同じ目標で子どもを育てていく同じ目標で取り組んでるのだからそれぞれがつながってないというのが一つの問題になりますので。</p>
一色委員	<p>スポ少に関しては、やっぱり指導者たるものやっぱ講習をきちんと受けるべきじゃと思います。心の面を育ててやるということ、団体スポーツだったら協力することの大切さ、そういうものを小学校の段階でスポーツの楽しさを教えてやるのが大切じゃないかなと思います。</p>
浦江座長	<p>子どもを育てていくという方向性を確認しながらやっていく面で言うたら、いろんな子どもが関わっている団体さんにも範囲を広げてのお願いやあるいは連携が取れるための仕組みについても検討していく必要があると思いますね。他にはどんなんでしょうか。この性教育というのはえらい具体的なんですけど。</p>
渡邊委員	<p>性教育は家庭においても必要なんですけども⑦番の生きる力のところで必要になってくるんじゃないかなと思いつつ今ちょっと考えております。</p>
浦江座長	<p>家庭でしなければならぬこと、すべきことというのは先ほどの挨拶でありますとか、そういうしつけ面という、そういう通信機器等を使ってのお互い迷惑かけあわないようなそういったことということの認識ですね。</p>

渡邊委員	スポ少にいくんであればこういう協力もしなさいよというような家庭とお互いのキャッチボールができたらと思います。
浦江委員	他に家庭の育児能力の低下の問題、地域子育てセンター、子育て広場等を整備し対応している。また、地域の力を借りて対応する必要があるという項目なんです。
橋川委員	ちょっとこれには一言あるんですが、確かに能力の低下というのがあるのかもしれないんですが私はそういうのは、それほど言うことではなくて時間がないっていうかですね生活に追われるというところもあって時間が無くて、その能力が発揮できないというところもあったりするので、そこを何とか支援できるような形で保護者のですね能力をもっと出させてあげる機会を設けてあげるというか、時間を割けるようにしてあげるというのが支援のやり方じゃないのかな。そういうことで家庭の教育力を上げられるということが一つでくるんじゃないのかな。必ずしも能力の低下というような形ではなくて、あるだけでも発揮できないというふうに理解した方がいいんじゃないかなという気はしています。
浦江座長	子育てのまずはネットワークづくり等によって、ある程度効率を上げるというのは言葉が悪いですけども時間も割けるし協力もし合うことでということですね。
橋川委員	昔はその能力が今より有ったかと言われると、それほどでもないような気がするんですね。それは昔がなんでそういうふうに言われるかという、やはり地域のネットワークというか、隣同士の付き合いであったりとか近所の付き合いだったり、そういう中での教育というのがあったんで、そこがかなり補填するところがあったという気はするんです。それが今は隣近所のそういう関係が薄れてきたというところでも無くなってきて薄れて、その個人の家庭の力が顕在化しているというところで、時間が無いけど頑張らないといけない、だから焦る、というようなところでジレンマに陥ってるのが今の保護者じゃないのかなという気はします。
浦江座長	時間と場の提供といいますか。それ提言するというたらどうですか。
木村委員	橋川委員さん方からの話、今ちょうど国が子育て支援三法というの改正して国

橋川委員	<p>あげて子育ての支援をしようと、まあ保護者さんの子どもさんに対する時間を作ってあげたり、また保護者さんの見れないところを公でのシステムができないかという見直しをいろんなところでします。</p> <p>母子家庭父子家庭についても昨年法が出されて昨年施行されてはいるんですが、見る限りお金の援助とかはそれなりにやっていただけるような形にはなっているんですが、ただ、そういう教育というところからすると地域でもう少し助けてあげられるようなですね制度というのを、もっと充実させるべきじゃないかなという気はします。</p>
木村委員	<p>今、新居浜市でもやってる学校支援地域本部事業とかをやってますし、やってるんですけど不十分なんで、まだこういう御意見が出てくるだと思んですが、提言の中には、このままの言葉ではなかなかしづらいです。</p>
浦江座長	<p>下の方の子育てサロンとかにも関係してきますよね。そういったところの活動の支援充実ということにも繋がってこようとは思いますが、後、予算関係でここに講師等の予算的な措置ができないかというのが、ここに出てきとんですが。この辺りは一つにくくってという形になるんじゃないかと思うんです。講師を呼んでのそういう教育活動もあるだろうし、それぞれの定期的な活動における子育ての支援というのものもあるでしょうし、そういうのを一つにくくっていただいて、こことしては提言させていただくという方向性でやらせていただけたらと思います。</p>
橋川委員	<p>一番下のところに我々のテーマであるとして書いていただいているところがあるんですけど、有名な講師を呼んでも、ある決まった人しか参加しないというところがあるので、どれだけ周知できるか。いくらお金かけて呼んでもですね結局ほんの一部の人たちだけだったら効果としては薄れてしまうので、それをどうやって広げるかというところを考えなくてはいけないのかなという気はします。</p>
浦江座長	<p>周知という形のことも含めながらの提案ということでかまんですかね。</p>
木村委員	<p>なんとか考えてみます。なかなか連Pさんの活動の周知の仕方なんでなかなか提言しづらいなとは思いますが。</p>
渡邊委員	<p>まあ、せめて単位の学校の校長先生と教頭先生の名前ぐらいは覚えましょう、</p>

	<p>みたい。知らない人はほんとに知らないんで。誰だったけみたい、毎年変わるしみたい。それぐらいは興味持ってください。学校に関心を持ってください。保護者としては全員知っておくべきかなとは最低限思います。それすらわからない保護者も結構いるので。</p>
木村委員	<p>掲げるような提言をあげて事業としては実際何かするときには提言のここを受けて事業しますということで。</p>
浦江座長	<p>今家庭においてというところで、まだ十分出尽くした状況ではないんですけども先ほど申しましたように、なるべく最後まで行きたいという都合がありますので④番の方に行かしていただいてよろしいですか。</p> <p>④番が大きな括りとしては学校での教える力、方法ということで、少人数学級、人的加配が必要である。</p>
一色委員	<p>子どもたちの状況を見ていると非常に支援を必要とする子どもたちが増えてきているのが現状です。学校現場が一番言いたいのは、要望したいのは前回言いましたが学校図書館の学校図書館支援員さんの全小中学校への常駐での配置及びエアコンの整備と図書の本の整備を兼ねてのパソコン、LANでつなぐという分と学校支援員さんを各校常駐で各小中学校に1名ないし数名置けるようにしていただいたら、そういう個別に支援を必要とする子どもたち、だれかれと関係なくそれに対応できて、その子も落ち着くし学校、クラスも落ち着いていくので、そのことについては是非大きな予算化でよろしくお願ひしたいと思います。</p>
浦江座長	<p>是非。実際教員忙し過ぎるんです。ほんと子どもが信号発しとんのに、今の忙しきだったら気づかないケースも多々出てくる心配がありますんで、そういった面からいったら、ほんともう少しゆとりをもって子どもと接する時間的な余裕が欲しい。今一色委員さんが言ってくれたような、ある程度の人的支援、まあ退職した教員でもいいですし教える技能をもってかかわることができる方を非常勤等で配置なんかしていただけたらほんとありがたいな。というのは実情でございます。</p>
渡邊委員	<p>図書館活用というところでエアコンの配備というのは大賛成なんですけども、図書支援員さん、あと放課後行う地元の方にお願ひする読み聞かせとか結構そういう方が地元にはたくさんいると思うので毎日のように今日は一年生が読み聞かせが図書館でありますよとか、何も音がしない図書館というのは今時流</p>

	<p>行らないと思うので、ほんとそういう地域の方とコミュニケーションをとるために読み聞かせをする場を作っていただくとかそういうふうな活動の拠点になれば図書館もいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>図書館の利用というのがいろんな立場から出たんですけども、人的なネットワークづくり、設備もかなりありますよねといった面での今後の取組ってというのが今ほんと聞かせていただいて大事かなと感じてます。そういう方向でまた是非、提言もさせていただきし取り組んでいただけたらありがたいなと思います。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>もしエアコンが付くことになったら電気代は何処が出すんだとか、しょうもない争いはしないでいただきたい。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>図書館がかなり中心で出てきたんですけど、その他の子どもたちの悩みに応える、そういったところで配置はしていただいとんですけども、もう少し教員の多忙感が解消できるための人的配置も検討していただけたらと思います。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>先生に聞いたことがあるんですけども、ゆとり教育と言われる前の教育から今の教育に変わって、結局ゆとり教育の時に時間が空いてる所に入れた項目が各学校で決められてるか、私もよく分からないところなんですけども、ある程度時間を埋めるような形でやられていたものが、結局教育方針が変わったところでもそれが取りきれなくて、そこにプラスアルファで何かいろいろなものが入ってきているので、それに輪をかけて多忙になっているというような、それをなんか変わったところで、校長先生の裁量かなんかわからないですけども、こう取り除けるみたいな形のことではできないでしょうか。私もちょっと分からないのでこういう質問で聞きたいところではあるんですけど。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>ゆとり教育でというよりも、ほんと今、大事なことというのは、どんどん増えてますよね。先ほどの情報モラルのことについても以前は必要なかったですよ。危険なことから身を守るという中でも特に防災教育というのが非常に大事ですよ。国際化に備えた国際教育いうのも大事ですよ。いろんな面で大事ですよというのが、どんどん増えていきよんです。大事じゃないもんは無いですよね。食育とかいうものすごく大事だと思うんですけども、そうするとこれも大事ということで広がる一方で、ある程度の絞るのが今ほんとこの時期必要なというのは私自身も感じてます。ただ、その時に食育はそこそこにしようやとか、防災はええやとかいうレベルの問題ではないので、学校として</p>

橋川委員	<p>は非常に悩むし私は大きいとは考えています。ただ、ほんと重点化と言いますか、うちの学校はこれ例えば学力、教育力、学力を上げるためには、さっき言った挨拶、そういうのをきちとせんといかん、その中で地域の人とつながる手段として防災教育は考えることができる。そういう一つのテーマを決めて、そのために配置の仕方を考えていかんとは思っています。</p> <p>今、防災の話が出てきたんですけど全部学校でやらないかんのかいうたらそうではない話だとは思うんですね。ここは学校でやらないけん、全体の話になるとそれは家庭であったり、地域であったりというところがあって然るべきだし、保護者がしっかりしていればいいという話でもある。そこんところはみんな学校になんか押し付けてると言ったらちょっと語弊があるのかもしれないんですけども、ここでなんか期待し過ぎるところもあって、また、期待されることに対して応えなきゃいけないという学校のプレッシャーもあって、というところでなんかみんな言えないままに動けないままに、こうとりあえず、もうみんなやっていかないかんみたいな感じで、時間に全て追われてるような気が今の話含めます。もう少しうまく取り除いてあげられれば進むようなところもあるんじゃないかな。</p>
浦江座長	<p>ほんとそういった面での検討というのは今だからこそしていく必要があると思いますね。</p>
橋川委員	<p>新居浜市として重点事項としてこれでいくんだと言ってもらえれば校長先生も楽なところもあるんじゃないでしょうか。</p>
浦江座長	<p>いろんな柱がバラバラとあるんじゃないしに一本の大きな柱がボーンと立っているところの活動ですよ。</p>
渡邊委員	<p>家庭と学校のバイパスというのが各単位PTAだと思うので、そこを有効活用して、その中で地域との連携というのがものすごく今求められるんじゃないのかなと思います。</p>
浦江座長	<p>学社融合という立場から言うと学校が発信させていただいて、それが家庭、地域に広がっていくと。公民館活動だったりそういったところからの発信で今度は地域から家庭という、学校からは家庭、地域という形になるんですけど、公民館いうたら地域、家庭という形になろうかと思えますけども。両面で先ほど私が言ったような活動についても進めていく必要があると思いますんでね。そ</p>

<p>一色委員</p>	<p>ういった連携についての方策も今後検討していく、このことについてはさっき木村委員さんおしゃいましたけども、そういうこの時にこうするというのを具体的に考えながら、そしたらその先のことはこういうふうにともっと深めていったら充実させていけることができると、思いますんでそういう取組について学校でもPTAでもいろんな団体さん、公民館、社会教育課でも考えていただきながら市としても重点化ということで、学校と協力しながら、あるいは公民館、各種団体と協力しながら進めていっていただけたらと思います。そういう提案の仕方ということでさせていただけたらと思います。</p> <p>他に学校でというのがありましたら。予算を必要とするのもかなりあるんで、いろいろ短期でというのは難しいところがあるんですけども是非そういう取組について検討実施していく必要があるんじゃないかと思うんでよろしくお願いします。</p> <p>⑤番の方に行かせていただいてよろしいでしょうか。では、企業との関わりということで企業がどうユネスコスクールに関わっていくかが課題である。新居浜の特徴の住友の活用、教育現場との交流がもっとあって然るべきというような内容でここには書かれてありますが。</p>
<p>木村委員</p>	<p>企業さんは第一線で自分でポリシーを持って会社を経営している方が多いので、そういう話を子どもたちに聞かせてほしいなと思います。無料で。特に前回のトイレ掃除の話いいと思いますね。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>企業との関わりということで地域とは別に企業という形であげてるんですが、地域が学校に関わる、昔の遊びを教えるとかいうようなことを地域でしてますけど、じゃあ企業は一色委員が今言ったように企業の代表者が、子どもたちに将来の展望みたいなことも含めて学校に出向いて話をする。また逆に子どもたちが企業に出向いて行ってお父さんの会社じゃないけど、社会というのを子どもの時に見てみるっていう体験をするっていう関わり方なんかもできるんじゃないかと思います。</p> <p>昔はちっちゃな町工場的なものが多かったので登下校の時においちゃん、何やってんのん、何作ってんのんみたいな感じで外で見てたとは思いますが、今は安全対策で入っちゃいけないよとか、話するなみたいな感じで大人の方が逆に一線引いてるのもあると思うんです。そういう安全管理というのは確実に必要で、会社で子どもが遊んでて怪我されたら企業のせいになるので、そこら辺は今の時代には沿いずらいのかもしれないですけど、そういう場っていうのは夏休みを利用してとか、そういうような感じで大きな休みを利用して見学会を父兄</p>

	<p>と一緒にしましょうかとか、そういのもあってもいいのかな、そん中で挨拶というのは大人がいっぱい、ほとんどのところで挨拶言ってるじゃない、またすれ違う時は会釈をしますんで、そういうふうなところを子どもたちに見せたらいいじゃないかと思います。</p>
浦江座長	<p>職場体験等の受入について市の方でかなりお世話していただいていますよね。ですから例えば企業でうちだったらこういうことができるから学校が言うてきたら相談乗るよというような、ある程度リストみたいなものができたりすると、学校としてもゼロからのスタートじゃなくて、こういうことができるのなら、そしたら相談させていただこうかというような、前向きな検討と活動の実施ができると思うんです。できればそういうのがあればありがたいなとは思いますが。</p>
加藤委員	<p>それほど数多くはないんですけど企業さんによっては地域協力ということで、そういうことさせていただきたいのでニーズがあれば言っていたきたいというのがあります。うちの職場体験教育担当の指導主幹の方が情報を持っています。それがたくさんになって選べるぐらいの量になるとありがたいんですけど、また積み重ねていっています。</p>
橋川委員	<p>子どもたちがこういう夢を持ってていうのがあって、最大公約数的なところで集まりが、芽がある程度一つの大きな塊になるような、そこに向かって行くためにこういうことがあるね、という中で企業が協力できるような、その夢の実現のためにこういうのが今やってるのがいろいろあるよというところで、興味のある子どもたちおいでとかね。そんな形のこともできなくはないのかなという気がしますので、そういうところで子どもたちの要望みたいなのも分かれば逆に上からだけじゃなくて今度は企業から子どもたちの要望に対して協力できる場所は多分出て来るとは思うんですけども。</p>
浦江座長	<p>できることを考えるのも大事なけども、することを考えるというのはもっと大事ですよ。</p>
橋川委員	<p>やっぱり夢を持ってうえにどう実現させていくかというところで、子どもたちにヒントを与えられれば企業としても支持される。</p>
浦江座長	<p>ほんと両面からそういうの必要ですよ。そういうのは一個上にある企業がどうユネスコスクールに関わっていくかが課題である。というところも結局同じ</p>

	<p>根のところになりますよね。学校があるいは子どもが何をどうしたいか、いうことを発信する必要も当然ございましょうし、逆に企業としてはこれだったら協力できるから相談によって形はいろいろ変えることはできるよというようなこと、お互いのコミュニティとか意思の交換が可能になる手立てを進めていく必要があるかなと思います。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>具体的な考え方も必要だと思うんですけど、例えば中学生が老人介護の仕事をしたいんだといった場合、今から減り続けるお年寄りさんの何十年か後にそういう仕事を目指していきたくてもそういう仕事つけないとかいう状態に陥る。30年後、40年後まあ、20年後でもいいんで、そこらへんで必要とされるのってなんだろうという子ども会議みたいなんで話し合わすのも一つの教育力なのかな、将来的にはどういうふうにかこの地域はなってるよとか、お年寄りがずいぶん減ったねとか、きっとその頃になると老人ホームさんというのは少しずつ減っていくと思うので、まあそんな感じで将来の新居浜市づくりみたいな感じで、そういう会議もいいのかなと思います。企業としてはそういう思いを持った子どもたちに育ってくれたらありがたいので。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>⑤番ひとまずこれでおかしていただいて⑥番の新居浜が好きだよでまた御意見をお願いします。</p>
<p>一色委員</p>	<p>ここは要はユネスコスクールでESDの予算をどっとアップしてください。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>新居浜が好きだよという言葉は大事ですよ。例えば庄内が好きだよとか高津が好きだよとか船木が好きだよ。いろんなそういうようなことから当然新居浜、愛媛、日本、この地球がいう形で広がっていくと思うんです。ただ今話しよることが全部つながるとよいう気がするんで、ここで特別という必要はないかなとは思いますがよろしいですか。ただこの中の項目でそしたらというのがあったらこの項目でというのがあればお出しただけたらと思うんですけども。この項目の題は新居浜を好きになる、ひいては自分の住んでいる所、それを世界規模に広げていくということで項目としては特にはいらぬかとは思いますが。何かここに書いてあることで何か提言がありましたら教えていただいたらと思うんですが。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>学校地域企業含めて一体感を持たせて新居浜が好きだよ。学校地域プラス企業も必要になってくるんじゃないんですかね。新居浜がということになっていくと学校地域企業全部を含めて新居浜って素晴らしんだよというふうな。だから</p>

<p>浦江座長</p>	<p>好きなんだよという提言でいいのかな。</p> <p>ほんと全部ですよ、さっきの⑤番のところも当然いろんな関わり方で大人が企業が子どもを支援してくれたら子どもにとって愛する故郷を愛する地元という気持ちが育つでしょうし。では⑦番の生きる力というので、これボランティアでありますですか、男頑張れですか。私も耳が痛いんですけども中高生なかなか地域の活動に参加しにくい現状であるだとかそういうのがあるんですけども、ここの項目のところで御意見いただけたらと思うんですが。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>生きる力の概念については、どのようなとらまえ方をしていけばいいんですか。生きる力の意味ですね。この後に少しあるんですけども、例えば学力というものはどういったものかとかですね、そういったものの概念がちょっと、あまりにも大きくなり過ぎてですね。</p>
<p>木村委員</p>	<p>今回の教育力向上というこれもすごく大きくて、言われた時教育力ってなんだろうと考えて、すごく大き過ぎて多方面にわたる項目になってるんです。いろんな中で今お話のあった生きる力というのがすごく大きんですけど、今各委員さんから出てるE S D教育であるとかユネスコスクールなんかで、生きる力というのが概念的には持続可能な力であって、問題解決能力であったり、イメージ的にはそういうイメージですね。問題解決能力であったり持続発展可能な力というようなものが総じて生きる力という、基本的な生きる力もあるんですけど食べるであるとか動くであるとかそんなものもあるんですけど持続発展していく力です。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>性教育も性について、まあ生きるっていうのと、生きる力っていうのが、なんとなく自分で生きなくちゃいけないという孤立感がものすごくあるんですよ。なので提言したいのは生かされてることの力、生かされてるんですよということを認識する。自分一人で生きてるんじゃない。自分一つの命じゃない。みんながいっぱい応援してくれて、いろいろ携わってくれてるから生かされているんですよ。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>その生きる力、生きる能力の細分化された問題の中にですね社会的な力がやっぱり必要であったり、経済的な力が必要であったり、社会的な力が必要であったりするかと思うんですね。その細かなところで養成する力というのは各年齢とか学校の枠組みによってかなり変わっていくと思うんですよ。例えば中学生高校生になると地域活動にはなかなか参加しない。参加できない。時間帯によ</p>

<p>浦江座長</p>	<p>り参加できない要素も大きいかと思うんです。例えば自分のことを言って非常に恐縮なんですけども、自分が中学高校の時はどうだったのかというたら全くそういったことは生活の中になかったです。ただ社会に出た時には、やっぱり地域と密接にしないといけないなということを、自ずと経験を踏まえたうえで必要と感じたりする時期もあろうかと思うんです。全ての年齢に参加させるというようなことではなくて、小学校の時には参加するようなことを教育するような時期、その後についてはそういった思いを例えば膨らませていく時期、未来的にはそういったことを踏まえた上で、もう一度あなたは社会の一員であるということ認識いただく時期なのかというような、時間的な枠組みとかいうのも必要じゃないかと思います。</p> <p>提言としてですね出すときに先ほど説明していただいたんですけども、提言の方向ですけども、この項目並べた形の提言とはちょっとなりにくいんとは思うんです。ですから今生きる力という項目で考える土台の分け方の一つとして、してくださってますけども、こここのところのこの項目この項目というのはあまりこだわらなくていいと思います。ほんとと学校としてあるいは地域として家庭として三者がほんとに協力してこの項目に該当するものを提言としてあげさせていただく。分け方としては三つないしは四つあるいは、地域家庭学校、さっき企業というのは地域の中に入ってくるんですけども、それをほんと、ひとまとめにして提言をこうしていく形になりますんで、先ほどからこの項目ごとにはさせていただいておりますが、最終的な提言のまとめ方は事務局の方で次回提案していただくのを私たち見させていただいてという形になります。ですから、あまりこの言葉、さっき私がこだわって新居浜がどうのこうのと言ってしまったんですけども、それほどこだわる必要がないのかなとは思いますが。先ほどの御意見でほんとに参加できる年齢、参加を深めて広げていくための考えていく年齢それぞれの年齢に合った子どものための関わり方、必要だと思いますんでそういったことも、しかし、どこまでどう進めていくかは難しいですけど、例えば今市P連さんが取り組んでいただいている陸前高田にボランティア活動というよりボランティア学習ですよね。ほんとボランティア活動、ボランティアの重要性と、あるいはその場所に行くと人の思いを感じ取って帰ってくる。そのことが将来のいろんなボランティア活動につながっていくんじゃないかと思うんですけども、そういうのを今伊藤委員さんの方から、おっしゃっていただいた中に入ってくるんじゃないかと思うんです。これからもそんないろんな活動を学校でも進めていきますしPTA、市P連あるいは公民館活動いろんな企業の協力を得ながら進めていくというのが大事になってこようかと思えます。ほんとと中学校高校実際いろんな活動、参加はなかなか難しくはなりま</p>
-------------	---

木村委員	<p>すね。部活動言い訳にしたらいかんのですけどかなり子ども忙しい、さつき教員の多忙感言いましたけども子どもも相当忙しいと思います。</p> <p>伊藤委員さん言われたように小学校の時のイメージだったり中学校のイメージだったり、この生きる力のところへ、そのまま今みたいに具体的にはなかなかまとめづらいなと思っていたんで、まあ地域との関わりとか地域の役割とか家庭の役割みたいなどで年齢だったり時代に合ったいろんなテーマを子どもたちに、年齢に合ったというような言葉を入れていくと伊藤委員さん言われたようなことが提言に入っていくのかなと思っています。</p>
渡邊委員	<p>今のボランティアのグループの中でよく言われているのは、やれる時に、やれることを、やれる人がするっていう、そういう言葉がありますけど正にそれが結びついていくのかなと思います。</p>
渡邊委員	<p>今ある性病というか疾患とかいろいろあったり中学生が中絶をしたりそういうほんと命が失われていたりとか、そういうところもしっかり教えていかないと今後ものすごく自分の身体を大事に扱わないっていう子どもたち、男の子なんかは、もう妊娠したから仕方ないよ、誰の子かも分からないしとか身勝手な事ばかり。まあ男の子も女の子も、しっかり中学生ぐらいの時には、そういうところを教えないといけないのかな。それを知らない保護者ってどうなの、違う認識を子どもに教えてしまう。我々が今やっているのが親に対して一生懸命そういう命の大切さとかいうのを教えてるんですけども、生きる力としてそういう親に、保護者がしっかり今の現状を掴むべきだろうな。子どもたちに教えないといけないのは、これとこれとこれですよというのをちゃんと提言していかないと誤った道に、間違っただけで、間違っただけで教えたりする。家庭づくりが必要なので保護者の意識づくりが必要なのかな。自分を大切に、生きる力なり生命というのを考えてくださいというのが必要なので、PTAとしてはしております。</p>
浦江座長	<p>なかなか家庭で前面に出してというのは、きっちりそういうことを話しするというのかなかなかほんとできにくいですね。</p>
渡邊委員	<p>母子家庭、父子家庭もあるんで、だから男親が女の子に教えられるようなこと、なかなか難しくできないし女親が男の子に教えるっていうことのも、男が男を教え女が女を教えるっていうことが、今バランス的にできなくなってる家庭っていうのが結構あると思うんです。そこら辺は地域でとか友達同士とかコミ</p>

	<p>コミュニケーションを広げてそういう会話をするとか、まあ知っている人が教えに行ってあげるとかそういうようなコミュニティもあってもいいのかなと思います。</p>
浦江座長	<p>まあ、そういう性教育の必要性、家庭でできにくいところほど、何らかの支援アドバイスという方向性もあるんじゃないかなということですよ。今家庭の親についての教育、子どもに対しての教育と両面の支援ということですね。</p>
一色委員	<p>学校でも性教育はしますが、あるアドバイザーの方に来ていただいて誕生学というのを昨年と今年やらせていただいて内容はほんと素晴らしかったですね。子どもたちも感動するし親も感動していました。</p>
浦江座長	<p>学校でも当然頑張っていく必要がありますし市としてもそういう支援の方向性は何かあるでしょうし市P連もそうですし、さっき言った公民館活動なんかでもそういった取組が何らかの形でできるかもしれません。</p>
浦江座長	<p>⑧番目の学力向上のところでの話になると思いますが、さっき伊藤委員さんがおっしゃった生きる力とか学力とかの捉え方の問題もあるんですけど、ここは狭義の意味ですね。極端に言ったらほんと理解力とかそういう判断力とか知識とかという中のある程度点数化できるようなところの内容ですね。この三つ見させていただいたら。学力、最終的には人のいろんな思い考えを聞いてそれを自分なりのフィルターにかけていろいろ考えて判断して今度自分の言葉として発信していく。いろんな目標があると思いますが、これちょっと悪い言葉で言うと点数化できる、その学力に絞っての話、これも大事です。これだけではいけませんけども。やっぱり子どもたち分かったできたという喜びを味あわせるというのはほんと一つ大事なことになると思いますんで、ここに書いてあります放課後児童の学習支援あるいは保護者教師のやりとりで子どもが学力向上。点数も大事だがそれを追求しすぎるのは良くないけども、やっぱりある程度その目標に掲げる必要はあろうと思います。</p>
橋川委員	<p>学力向上になるとどうしてもですねその矛先が行くのはボトムアップ的な話になるような気がするんです。皆さんのレベルを上げていってある一定以上に上げて平均化しましょうみたいなところになるかと思うんです。それだけだと学力向上というふうにつながっていかないんじゃないかなという気がします。やはりボトムアップがあるんであればトップダウン的な話も、そのトップの人たちを引き上げるみたいな方法も両方あって然りだと思います。そこのバランス</p>

	<p>を上手くしていかないと結局どっちかに偏った話になってしまっていてバランスとれない形になって、あるいは、バランスは取れたような形にはなるんでしょうけども子どもたちにとってはあくまでそれはいっぴひとからげみたいな話になってしまというところで面白くない。スポーツの得意な子は得意で頑張ってそれを評価してあげればいい。勉強は勉強でそれは評価してあげる。ていうところでやはりその辺も合わせた施策をいろいろやっていただいて、そういう評価をいろんな形でして行ってあげられたらという気はします。やっておられるとは思いますが。</p>
木村委員	<p>今の御意見は底辺を上げるということも必要だけどトップクラスの子を今あるトップからもう一つ先のトップに持っていくという施策。まあ手前味噌になるんですけど今年からあかがね算数数学コンテストを大人でもなかなか解きづらい問題を小学校高学年と中学生と二つに分けてテストしたんですけど、まあ、伸びてる子はもっと上に伸びるような施策もということですね。</p>
橋川委員	<p>それなりの英語頑張ってる子はそれなりに海外の方への研修事業とかに参加させてあげるとかですね。そういうのも一つの手だとは思いますが。学力もいろんな学力があると思うんですよ。数学だったりその項目ごとの学力だってまた違う学力もあるかとも思うんです。どっか突出していればそれなりに評価される場所も絶対出てくると思うんで、そういうようなそれを縮めるようなことが無いようにしていただきたいな。</p>
浦江座長	<p>みんなが分かるみんなができるいうのももちろん大事ですけども、ほんにより高レベルに進んでの満足感というか充実感というか。それを奪ってしまうことだけは避けていかんといかんと思いますんでね。</p>
橋川委員	<p>今回の全米オープン錦織選手は中学校13歳の時からもうアメリカに行く自分で決意してそれを全部が支援したということは、それなりに周りのサポート体制が出来ている。あういう形で潰さないようにすればいろんなところからいろんな人材が出てくる気がします。</p>
浦江座長	<p>私、前回あやふやな発言でしたんで多分こういう形になつとると思うんですけどもほんと新居浜市さんが市の方で4月に予算化して小学生は3、4、5、6年、中学校は1、2、3で市内全体でテスト受けらしていただきよんです。同じテストです。はるか昔に統一テストというのがあったんですけども、あれと形としては同じような状態のテストを受けとんですけども、それ4月に実施し</p>

	<p>ていただきよんはほんとありがたいんですけども、もう一回振り返りに子ども自身もそうですし教師も反省すべき点があると思うんです。今意見いただいたようにほんと得意な子どもをちゃんと伸ばせとるか。あるいは苦手な子どもをある程度底上げできているかいうのもその年度内で教師自身も反省していく。子どもも自分自身の取組を反省していく。そういう振り返ることができるのを年度当初のスタートの時に、さあ今から自分の課題はという形でしていただいとんですけども、ただ成果が次の年度になったら子どもは振り返れるけども教師自身、教師の振り返りもいると思うんですよ。ほんと大事なものは点数じゃないとは言ってもやはり点数取ったらうれしいです子供たち、という面の振り返りのためのものをもう一回できんかなという思いが私あります。予算に関わるし極端にいうたら点数だけですけども、点数の子どもにほんとに大きな喜びを与えるものですから、そういったことが何らかの形でできないか。また検討いただけたらと思います。</p> <p>⑨番一応最後になりますけども学校等との連携、子どもたちのための情報が共有されていない。最終的には子どもたちのためにと思うところで協力ができたらいい関係につながるのではないか。そしたらどういう形でというのがここ出てくると思います。学校、地域、家庭で定期的に話し合いの場を持ち地域で解決できるものは解決する必要がある。というようなここでは二つ項目がございますが、これについてこういったというのがございましたら御意見いただけたらと思うんですが。</p>
森委員	<p>社会教育課の方から資料として学校支援地域本部を新居浜市全体で14公民館が取り組んでいるというふうに最初に説明資料があったと思うんですけど、愛媛県的に見ても全国的に見ても新居浜市の取組としては比較的先進的に取り組めていて学校支援地域本部事業というのを5年ぐらいの取組になってるんですけど、その割には認知度がほとんどないと思うんです。ここに出席された方もありやというぐらいだったと思うんです。実際の取組としたら、見かけたら皆さんうなずかれると思うんですけど、小学校の登下校にお揃いの校区でジャンパーの、蛍光色のジャンパーや帽子を決めて送り迎えをしていただく、またはボランティアによって読み聞かせを、先ほど放課後に図書館ができたならば是非そうなると思うんですけど、今実際は朝の時間にどこの学校も先生たちが会議中にボランティアの方がいて読み聞かせをしている学校がほとんどだと思うんです。後は、まあ昔からある三世代の交流事業として昔の遊びを教えに行ったりとか注連縄づくりをしたりとかいう、それをそのまま学校支援地域本部事業の活動として移行してしているんですけど、やればやるほど大変なんです。実際には5年前に始めたことの活動を毎年繰り返してもらってるだ</p>

けでこれを更にやっぱりスキルアップ、レベルアップしていくには、本来は文科省の目的ではコーディネーターというのを地域で探さないという形になっているんです。ほんとに地域人材で、そのコーディネーターの適切な方がおられて、その方たちが次のいいところを盗もうよ的に動いたら、もっともっと更に活動が広がっていくと思うんですけど、まずそのコーディネーターを見つけることの難しさ、育てることの難しさという壁に直面して、これがあるといいなと思いがなかなかできないんです。例えば新居浜では比較的訪問に来られるのが泉川校区だと思うんですけど泉川校区の学校支援本部は、例えば遠足について行って交通整理をしてあげるといこともありますし、まあいろんな使い方が地域の方できると思うし先ほど渡邊委員さんの話のようにやれる時にやれることをすればいいということで、地域の人みんな先生というんですけど、私は地域の方が失敗してくれたら生徒が喜ぶんじゃないかと思うんで、一般の人もそういうふうに学校に溶け込めるようにコーディネーターが差配すると本当に教育力が地域の方にもやりがいがあるし、学校もプラスになると思うんです。また、コーディネーターの必要な役目として地域の人たちがいい事だからしてあげようとする意欲が前に出過ぎてちょっと学校としたらツーマッチでそこまでというのもあると思うんで、その辺の調整役として新居浜市としてちょっとコーディネーターを配置するか何かそういうコーディネーターを育てるような手立てを考えていくと、もっと面白い活動ができるんじゃないかなとそれは日頃から思ってることです。後、やっぱり各校区、小学校と公民館でよく話し合いができてると先ほどの性教育の誕生学でも校長先生からいいお話を持ってきてくれたんで講師の方は公民館の方でというように前向きに話が進めれるので、やはりいい関係を作るとしてせつかくその校区に住んでいる子だけがいい話を聞けるんじゃないかなと、こういう成功しましたということは全市に知らせて、そしたらうちも同じようにしてってというのができるようにもっと校区の学校支援地域本部同士の情報交換会が全くないので、そういう会を持つのは非常に前向きにできるのではないかと思います。希望を言うとPTAとの関係も良好にして、こういうお父さんたち世代が地域の活動に参加すると地域の方がやっぱり後継者ができたとすごい喜ぶんです。つい先日もPTAの奉仕活動で一応ソルティ多喜浜という塩田の施設がありまして付け替え作業にわざわざPTAの奉仕作業の日と一緒にお願いして主だった人が80歳前後の方なので取り替えに上がって高所の取り付け作業ということにもやはり30歳代、40歳代のお父さんたちが来てくれて時間も早く終わってすごい喜んでられたんで、地域の支援の中にかに働く世代の仕事を持ってるお父さんを上手く結びつけるかというのは大きな課題でこれが成功したらすごいいい教育力、男の復興で、そしたら男の子も頑張れる。

<p>浦江座長</p>	<p>地域の中でのそういう活動を深める広めるというコーディネーターの役割というのも確かに必要ですね。個々の取組を知ることで広げていく、マネをして自分のものにしていくという横の結びつきとか、市全体の横の結びつきもこれも確かに必要なんでありますね。</p>
<p>横井委員</p>	<p>今の意見お伺いしてほんと学校支援地域本部事業って素晴らしいなと思いました。学校の多忙感とか教師の多忙感とかほんとに手が足りないという状況に学校の方からコーディネーターが地域の方でいて、学校の方で環境整備でこういうところしてほしいとか、あるいは中学校だったら実は今この部活でちょっと来てくれる指導者誰か来てくれる人いないだろうとかいろいろな学校としては、やっぱり足りない部分があると思うんですけど、そんなんをほんとに言えて、その人がそしたらここ頼めるよとか、さっきPTAとか地域っていうのもありましたけど、もしほんとに地域の中に企業とかもあって、それに協力してくれるところがあったり、そんなんを地域のことをよく知っている方が連絡してあげようということで、していただけるのであればほんと学校としてはほんと大きな力になるんじゃないかなと思います。</p>
<p>浦江座長</p>	<p>実際ほんと必要ですね。あつたらいいじゃなくて必要ですね。さっきの学校家庭地域、地域の中には企業も含めて育っていくっていう形のことを考えていけば今の提言のこと本当に大事なところじゃないかなと思います。</p>
<p>橋川委員</p>	<p>コーディネーターという意味でいくと新居浜市が一番大きな、ある意味コーディネーターであるべきだと思うんですけど、その中で新居浜市のスタイルとして情報、子どもたちの教育の情報を我々に提供していただく手段は今どのようなものがあるのでしょうか。聞くしかないでしょうか。例えば何かを見れば、こういうところにそういう情報がありますよとかっていう形のものがどっかにあるのでしょうか。それはホームページとかなんかを見れば出てくるということ。</p>
<p>横井次長</p>	<p>ホームページが一番見やすいところですかね。</p>
<p>加藤課長</p>	<p>学校のホームページはものすごく充実しています。こんな行事があった、こんな楽しいことがあったなど、いっぱい書いていただいています。ホームページにアクセスする手段を持たない方に対しては本当に申し訳ないですが学校のホームページはものすごく良くなっているという評判はいただいております。</p>

橋川委員	各学校さんが結構やられてるのはホームページを見れば分かる事で、市として教育を進めるに当たってそういう情報の提供というところで、そういうところの各学校さんでやられてる、これとこれ交流させたらいいよとか、こういうところをまとめて上部だったらこうなるねとかいうのは提言されて何かそういうところの情報の吸い上げを元に活動されてるところは具体的に何かあるんでしょうか。
横井委員	例えば学校教育課であれば今回全国学力学習状況調査だとかがあつて、その結果、そしてそれに対する手立ての公表とかはしてます。そのことについて学校教育課として各学校に呼びかけて今しようとしているのが2学期に全国学力学習状況調査の結果を受けて、それぞれの学校でどういう手立てで取り組むかっていうのを、まあこういう様式で作ってほしい。そしてそれを集めてホームページで公表とか、そういう形のものやっております。ただ、先ほど言われたように各学校で日々更新していっぱいいろんながある訳ですけど、そういうものを上手くつなぎ合わせたりとか、あるいは先ほどコーディネーターの役割もあろうかと思うんですけど、いろんな市内全体での情報ですよ。そういうデータベース的なものがあつたりとか、それはやっぱり充実はもっとしていけば良いかなあと思います。
橋川委員	特に教育に関する情報なんていうのはですね、非常に欲している保護者が結構いるものですから新居浜市だけでなく全国レベルと比べて新居浜市がどうなんだとかいうところを含めたところの情報の提供というのは保護者が非常に欲してる場所もあつたり、それが全部隠されてしまうとじゃあ、もう他県という話になってしまつたりするものですから、そういうところ、まあできないところはあるかとは思いますが、教育の情報の提供の仕方というのはいろいろ考えていただいて工夫をこらしていただいて独自の何かがあれば非常にその全国にアピールできることなんじゃないかなあという気はします。
浦江座長	まあ、情報提供というのがありますし、さっきおっしゃった、やっぱり市内全体のそういういろんな活動のコーディネートですよ。発展させる、深めていくための提案でありますとか情報収集その周知という方向性の取組が今後なんだかできないだろうかということになってこようと、どこまでするかが難しいですよ。
浦江委員	全体を振り返っての御意見をいただけたらと思うんですがいかがでしょうか。

渡邊委員	ヘルメットの問題が市議会で答弁がありましたけど、あれもしっかり進めて安全ということで、いくら学力向上しても安全面で何もしなければ何にもならないので進めていっていただけたらと思います。
浦江座長	いろんな御意見ありがとうございました。これを次回に提言の形ということで大変だと思うんですがよろしくお願いします。
木村委員	前回と今回でお話しいただきました大きい事もあったり小さい事もあったり、なかなか提言書という形では表現しにくいお話もあつたりしますんで私の方でまとめさせていただいて提言案という形ができればと思っております。当初にお話しさせていただいたように学校、地域、家庭という三本柱でその連携ということが教育力の向上につながるのではないかと基本的には思っておりますので、それをベースにしたような提言のまとめ方にさせていただけたらと思っております。次回見ていただいて、それでいいよって言うように進めさせていただくか、次の会には案をお出しますんで、それについて御議論いただいて、そこで終わるか、もう1回最終きっちり見ますよということで2回するかというような形で進めさせていただければと思っております。